

驚異の反響

いい病院

第7弾

心臓病、脳疾患、がん

東日本ランキングベスト20発表!

心臓バイパス手術等ランキング(回答率78.7%)

病院名	所在地	手術数
1 東京女子医科大学病院	東京都新宿区	610
2 榊原記念病院	東京都渋谷区	586
3 葉山ハートセンター	神奈川県葉山町	402
4 新東京病院	千葉県松戸市	373
5 心臓血管センター北海道大野病院	札幌市西区	324
6 静岡市立静岡病院	静岡市	314
7 名古屋第一赤十字病院	名古屋市中村区	307
8 大和成和病院	神奈川県大和市	298
9 新越前病院	東京都葛飾区	280
10 豊橋ハートセンター	愛知県豊橋市	271
11 東京大学病院	東京都文京区	266
12 群馬県立心臓血管センター	前橋市	224
13 名古屋第二赤十字病院	名古屋市昭和区	223
14 埼玉医科大学病院	埼玉県毛呂山町	220
15 横浜市立大学市民総合医療センター	横浜市南区	211
16 国立療養所帯広病院	北海道帯広市	202
17 NTT東日本関東病院	東京都品川区	198
17 立川綜合病院	新潟県長岡市	198
19 静岡県立こども病院	静岡市	196
20 自治医科大学大宮医療センター	さいたま市	187

心カテーテル術等ランキング(回答率65.1%)

病院名	所在地	手術数
1 豊橋ハートセンター	愛知県豊橋市	1107
2 湘南鎌倉総合病院	神奈川県鎌倉市	935
3 川崎社会保険病院	川崎市川崎区	917
4 岐阜市民病院	岐阜市	821
5 石心会狭山病院	埼玉県狭山市	759
6 千葉西総合病院	千葉県松戸市	686
7 札幌東徳洲会病院	札幌市東区	660
8 大垣市民病院	岐阜県大垣市	630
9 名古屋第二赤十字病院	名古屋市昭和区	582
10 埼玉東立循環器・呼吸器科センター	埼玉県江南町	568
11 富山赤十字病院	富山市	543
12 新東京病院	千葉県松戸市	499
13 大和成和病院	神奈川県大和市	483
14 公立松任石川中央病院	石川県松任市	471
15 榊原記念病院	東京都渋谷区	468
16 日本医科大学病院	東京都文京区	462
17 昭和大学病院	東京都品川区	441
18 岡村記念病院	静岡県清水町	439
19 星総合病院	福島県郡山市	431
20 藤田保健衛生大学病院	野知県藤田市	423
20 岩手県立中央病院	盛岡市	423

トップ 花形病院の 名医

手術数の基準を満たした
医療機関名
東北編

手術数が多い病院で、実際に手術をお任せできる医師はどれだろうか。手術数が多い病院の東日本ランキングベスト20を作成し、トップクラスの病院に「イチ押し」医師を聞いた。

厚生労働省の基準を満たした「いい病院」調査の第7弾は「東北編」だ。

東日本(北海道、東北、関東、中部地方の1都1道21県)の病院を対象に、主な疾患について手術数をアンケートし、中心的な「花形名医」を推薦

20位までのランキングを一挙に掲載した。今回、ランキングでトップになった病院に、

トップ病院の「花形名医」

病院名	医師名	分野	病院の推薦コメント
国立がんセンター中央病院	鈴木健司	肺がん	年間200例の肺の開胸手術をこなす。難易度の高い化学療法後の手術成績も良
	日月裕司	食道がん	現場の診療責任者。手術だけでなく放射線治療などとの併用も積極的に進める
	島田和明	肝臓がん、すい臓がん	超音波をあてて血管の位置を確かめながら、手術を進める。人柄の評価も高い
	佐野 武	胃がん	実直な性格で、理論も確実。冷静で手術の技術に間違いはないとの評
	山本聖一郎	大腸がん	初期がんの治療で、がんセンターに初めて腹腔鏡外科を導入して注目
東京女子医科大学病院	高嶋 健	肝臓がん、すい臓がん	患者に負担が少ない術法を開発。あらゆる治療法を備えた消化器病センター主任
	堀 留勝	脳腫瘍、下垂体腫瘍	放射線での腫瘍切除や術中のMRI画像撮影など最先端治療のチームを率いる
	遠藤真弘	心臓バイパス	飛び抜けた手術数を誇る研究所でバイパス手術の権威。論文の評価も高い
東京大学病院	幕内雅歌	肝臓がん	全症例の指導にあたり、自ら7割を執刀。肝移植手術の実績も高い
神原記念病院	加瀬川均	心臓バイパス	他の病院から持ち込まれた心臓の難手術を手がける一流治療チームの責任者
新東京病院	山本 晋	大動脈瘤	大動脈疾患の専門医。死亡率20%超が通常の難手術で5%以下の実績を誇る
塚山ハートセンター	磯村 正	心臓バイパス	心臓外科の権威である須藤久善名誉院長とともに執刀のメインを務める
湘南鎌倉総合病院	斎藤 滋	心カテーテル術	手首からカテーテルを挿入する負担の少ない治療に実績がある
神奈川県立がんセンター	中山治彦	肺がん	ほとんどの手術を執刀。それ以外も、第一助手としてかかわる。手術は正確で速い
川崎社会保険病院	塚原玲子	心カテーテル術	女性の循環器内科医では国内一の技術をもつと評される
恵佑会札幌病院	細川正夫	食道がん	国立がんセンター中央病院出身。年間約100例すべてを執刀している
旭川赤十字病院	上山博康	脳動脈瘤	道内に限らず本州からも患者が訪れる評判の脳神経外科でメインの術者
脳神経外科病院	入江伸介	脳動脈瘤	年間数百の手術経験。患者への人当たりも良く、外来患者の指名が多い
東北大学病院	隈部俊宏	脳腫瘍	悪性脳腫瘍の執刀を担当。ニューロナビゲーターなど最新設備を使いこなす
岩手県立中央病院	望月 泉	すい臓がん	経験豊富で、新しい情報などにも研究熱心。チームをよくまとめているリーダー
県立がんセンター新潟病院	小池輝明	肺がん	肺の全摘出はせずに、なるべく小さく切る縮小手術に定評がある
豊橋ハートセンター	鈴木孝彦	心カテーテル術	年間1000例を超すカテーテル治療を監督。難易度の高い治療について執刀する

してもらった。

肺がんと食道がんの手術数ランキングで1位、肝臓がんでも2位と、がん手術ではやはり国立がんセンター中央病院が圧倒的な症例数を誇る。

土屋了一副院長は、肺がんでは呼吸器グループの鈴木健司医師、食道がんでは食道グループの日月裕司医師を推した。

「2人とも、日本のその専門分野では、同世代の中で最も多くの症例を経験している。手術技術、判断力、人格ともに申し分ない。脂が乗っていて、難しい手術でも安心して任せられる」（土屋副院長）

呼吸器グループでは、肺がんのほか、胸腺腫など年間600例の開胸手術をする。鈴木医師を含む3人のスタッフが3チームで、それぞれ200例。一人で平均的な病院よりはるかに多く執刀している計算だ。

鈴木医師は言う。

「国立がんセンターは、症例数が多いですから、どんな状況でも対応できる。たとえば肺炎などの合併症の手術は、

患者100人に2、3人の割合だから、手術数が少なければ経験もなくて対応できない。経験がない外科医にあたって割を食うのは患者です」

特に、初めに放射線と抗がん剤を使い、がん細胞を小さくしてから手術をする場合、経験がものをいう。出血しやすいためだ。

「この手術の死亡率は全国で33%と異常に高いんですが、国立がんセンターでは、いまのところ亡くなった患者はいない。何が違うかといえ、これは表現のしようのない手術中の判断なんです。どこまでとどこまで取るか、どこまでいったらダメか、すべて経験のなせるワザなんです」

食道グループの日月医師は、スタッフとして15年のキャリアを持つ。現場の責任者であり、同時に、年間症例の4割ほどの執刀も担当している。日月医師によると、食道がんの治療でも、この5年で手術と放射線と抗がん剤治療の併用が進んでいるが、やはり相応な技術を要するという。

このほか、肝胆膵グループ



豊橋ハートセンター
鈴木孝彦院長

有名病院と違う 輸血なしの手術

心臓病の経皮的冠動脈形成術（カテーテル術）等の分野で1位なのは、豊橋ハートセンター。年間1107例だから、一日に4例以上の手術が当たり前前の状態だ。

同センターを訪ねると、2階にあるカテーテル治療室の画面に心臓がずらりと映し出されていた。心臓の冠動脈にカテーテルが挿入され、詰まった血管が瞬間的に開かれると、頼りなげに細々と脈打っていた血管が広がり、絵の具を散らしたように心臓の隅々にまで血が行き渡っていくのが見えた。

カテーテル治療室の隣では大川秀秀副院長の執刀でバイパス手術が行われていた。大川医師は人工心臓を使わず心

臓が動いたままの状態です。冠動脈手術が行われていた。大川医師は人工心臓を使わず心臓が動いたままの状態です。冠動脈を縫い合わせていく手術の名手として知られ、開かれた胸からは出血はほとんどなく、なんと輸血の必要もなかった。都内の有名病院でバイパス手術を見たときには、血がビュービューと噴き出し、2、3以上の輸血をしていた。

同センターの白川洋之事務長によると、難易度の高いカテーテル術は、鈴木孝彦院長が執刀する。ただし、鈴木院長の治療、検査予約は2週間先まで分刻みで予約が詰まっている状態だという。

カテーテル術は、通常、術後約6時間の絶対安静が必要とされているが、同センター

では、従来、足の付け根の動脈から挿入するカテーテルを手の動脈から挿入しているため、2、3時間程度の安静で十分という。治療室から歩いて出てくる患者もいた。

「手の動脈の直径は約3mm、カテーテルの直径は2mm、カテーテルを血管に挿入するときの角度がずれるとカテーテルは入りません。これも経験によって、コツがつかめていくものですよ」（鈴木院長）

開業してわずか3年でこれだけの実績をあげた理由を、鈴木院長はこう話す。

「地域医療では、特定の治療設備を整える専門病院のほうが、患者を取り合うことがないから地元病院の支持を得やすい。心臓のことは心臓の職人に任せればよい。手術はうちでやって、退院後は地元病院に引き続き診てもらうから、遠方から通院する患者にとっても負担が少ない。総合病院がひしめく東京では、こうはいかないでしょう」

脳動脈瘤手術の1位は北海道の旭川赤十字病院。総合病院ではあるが、脳神経外科で名高い病院だ。

「数年前までは道北地区で唯一の脳外科だったため、道北の脳卒中の急患はみんな集まってきた。そのうち技術が評判になり、本州からもわざわざ患者が選んで来るようになった」（牧野憲一第二部長）

脳神経外科のイチ押し医師は第一部長の上山博康医師。同外科の医師全員が専門医の資格を持っているが、難しい手術は上山医師が手がけているという。

那須優子／本誌・鈴木 毅、藤井達哉